生活者動向

住宅と幸福の関係を問い直す

幸福国デンマークとの比較から検証

LIFULL HOME'S 総研所長　島原万丈さん

12月17日に開催する「住宅産業大予測フォーラム2020」に、特別講師としてLIFULL HOME'S総研所長の島原万丈さんが登場する。同所は実際のデータを基に生活者動向の分析を行うシンクタンク。「住まいと生活者の関係性」をテーマに、家づくりのプロに対しても、従来の住宅に対する概念を変えるきっかけとなるような独自のレポートを定期的に発表している。今年のテーマは「住宅と幸福の関係性」だ。

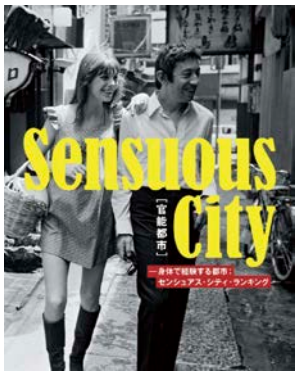
島原さんは、常に生活者目線で「暮らし」への問いを投げ掛ける。例えば2015年には「人々の生活する都市の魅力とはなんだろうか？」と、街の魅力(価値)を利便性や安全性といった機能ではなく、「〇〇できる」「〇〇したことがある」といった「動詞」や「経験の有無」によって判断する調査を試みた。その調査結果としてまとめた「官能都市(センシュアスシティ)」と題したレポートは、生活者が「暮らしの場所」を選ぶ基準に一石を投じた。

同調査のヒアリング項目は「コンサートや演劇で感動したことがある」から「異性に見とれたことがある」といったユニークなものまで多岐にわたる。結果として導き出されたオリジナルの指標による「都市(官能都市)ランキング」が、同所のウェブサイトに掲載されている。

2018年には、住宅と幸福の関係性を問い直したレポート「住宅幸福論Episode1 ー住まいの幸福を疑えー」を発表。「人々はなぜ住宅を必要とするのか？　もちろん幸福になるためでしょう？」という自然な疑問からスタートし、「持ち家と賃貸で幸福度に違いは？　新築と中古では？　戸建てとマンションでは？」など住まいの種類と幸福度の関連性を調査した。が、最終的に導き出されたのは「幸福度は住まいの種類より年収によるものが大きい」という結論だった。住宅産業の関係者にとっては、いろいろな意味で興味深い結果だ。

同レポートの結果を受けて、今年その第2弾として発表されたのが「住宅幸福論Episode2 ー幸福の国の住まい方ー」。このレポートのまとめに当たっては、国連による「世界幸福度ランキング」で常に3位以内に入っているデンマークで、前回、国内で行ったのと同様の調査を行い、その比較から住まいと幸福の関係性を解き明かすことを試みた。2019年の同ランキングで日本は58位。

その結果、デンマーク人と日本人では住まい方や「住まいとの向き合い方」などで、顕著な違いがあることが明らかに。デンマーク人の幸福度を左右する住まいのポイントは？　そこから見えてくる日本の住まいへの提案とは？　島原さんが住宅産業大予測フォーラムで、「特別レポート」として解説する。



オリジナルの指標で街の魅力を再定義したレポート「官能都市(センシュアスシティ)」2015年

昨年に続く「住宅幸福論Episode2」では、デンマークとの比較によって日本の住まいと幸福の関係性を問い直す

住宅産業大予測フォーラムの申込等の詳細は16面をご覧ください。